

本校の地域みらい留学生の活動が、南日本新聞に掲載されましたので紹介します。

留学生地域駆け回る

薩摩中央高校(さつま町虎居)2年の佐藤暖(なつ)さんは、埼玉県出身で、4月から留学している。2学期に入り地方暮らしにも慣れ、町内を駆け回る。学校行事に加え、地域活動などにも積極的に参加。「人見知りだった以前の自分が見たら驚くと思う」と笑う。

埼玉出身・佐藤さん(薩摩中央高2年)

佐藤さんは異文化に関心があり、海外留学を検討していたが、新型コロナウイルス禍で断念。訪れたことのなかった九州を目指した。特に鹿児島県の歴史などに興味を持ち、単年留学の内閣府事業「地域みらい留学生305」を利用。県内唯一の受け入れ校だった同校を選んだ。

普通科に在籍し、寮生活を送る。初の地方暮らしは驚きの連続。埼玉では近所の人でも干渉



「金吾様踊り」ののぼり旗を立てる佐藤暖さん

|| さつま町中津川

初の地方「支え合い」実感

休みの日はロードバイクで町外にも出かけ、風を感じながら100キロ以上を走る日も。この時期は収穫前の稲の香りなど楽しむという。今月10日には、10月1日に中津川地区で開かれる伝統芸能「金吾様踊り」の準備を加勢した。

鹿児島県の歴史といえば、西郷隆盛や大久保利通ら偉人のイメージを持っていたという佐藤さん。各地それぞれに歴史があり、文化を守り続けている人たちがいると知り、まぶしく映るようになった。「都会では得られない貴重な経験ばかり。将来は地域づくりに関わる仕事に就きたい」と日焼けした顔をほころばせた。

(山田天真)



「金吾様踊り」の関係者と交流を深める佐藤暖さん(前列右から3人目) || さつま町中津川